

論文内容要旨

論文題目

独居認知症高齢者ケアマネジメントスキル尺度の開発

教育・研究領域：生涯生活支援看護学

氏名：浅川典子

【内容要旨】

今後独居認知症高齢者が急増すると予測される。ケアマネジメントにより独居認知症高齢者の在宅生活継続支援を図るケアマネジャーには、一般的なケアマネジメント過程に加えて、認知症高齢者が独居であることをふまえたケアマネジメントを行うことが求められる。しかし、独居認知症高齢者を対象としたケアマネジメントスキルは明らかにされていない。本研究ではケアマネジメント実践経験が豊富なケアマネジャーへのインタビュー調査から収集した項目をもとに「独居認知症高齢者ケアマネジメントスキル尺度」を開発した。予備調査で作成した尺度原案を用いて全国調査を行い、6因子26項目の尺度を開発した。『生活実態の観察』、『チーム機能の活用』、『心情の推察』、『近隣との連携』、『家族との連携』、『サービス利用の支援』から構成される尺度は、認知症高齢者が独居である場合のケアマネジメントの要素を抽出した実践活用可能な尺度として作成できた。

平成 27 年 1 月 20 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 浅川 典子

論文題名： 独居認知症高齢者ケアマネジメントスキル尺度の開発

審査委員：主審査委員 小林 淳子

副審査委員 古瀬 みどり

副審査委員 細谷 たき子



審査終了日：平成 27 年 1 月 14 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

認知症高齢者並びに独居高齢者の増加に伴い、独居認知症高齢者の在宅生活を支援するケアマネジメントは今後益々重要となる。一方、認知症高齢者のケアマネジメントは実証的に解明されていない部分が多く、同時に家族の意向を重視する傾向があるため、独居の認知症高齢者のケアマネジメントに困難を感じているケアマネージャーは少なくない。

本研究は、独居の認知症高齢者本人に焦点をあてた包括的なケアマネジメント実践力を測定する「独居認知症高齢者ケアマネジメントスキル尺度」を開発し、信頼性と妥当性を検証することを目的としている。実践のデータに基づき尺度開発のプロセスが踏まれ、手続きは緻密に進められている。研究方法、分析は妥当で、得られた結果及び考察は目的に適う内容であった。審査では、主に本研究の意義、用語・文言の整合性、表を含む結果の表記等について指摘があり討議された。審査委員の指摘に対しては論述の追加がなされ、適切に加筆修正されたことを確認している。

本研究により、地域におけるケアマネジメントを反映する「独居高齢者ケアマネジメントスキル尺度」が全国で初めて開発された意義は大きい。本尺度は研究並びに実践での活用が可能である。ケアマネージャーが活用することで独居認知症高齢者のケアマネジメントの包括的な理解を促し、本尺度はケアマネジメントの指針として実践への貢献が期待できる。以上により、本論文は看護学の博士論文に相応しいと判定し合格とする。